

海外技術移転の現状と課題を探る -開発途上国の包装・物流の潮流-

食品流通アドバイザー

技術士[経営工学部門・農業部門]

田中 好雄



1. ODA(政府開発援助)とは

開発途上国への経済協力は、先進国の国々の責務であり、日本も歳出の約 1% を使用してさまざまな援助を行っている。日本の 2009 年度(平成 21 年)歳出における経済協力費は総額 6,295 億円にのぼる。

ODA には、開発途上国に直接援助する「二国間援助」と国際機関を通じた援助「多国間援助(国際機関に対する出資や拠出)」があり、アフリカ、アジア、中東で二国間援助の過半数を占める。日本は 90 年代を通じて 2000 年まで世界第一の援助国としての地位を誇ってきたが、現在は、米、独、仏、英に続く世界第 5 位の順位となっている。

2. 開発途上国の包装・物流の潮流

包装・物流は機能と経済性を満たす分野から浸透してゆくもので、その国の経済指標を表す最適な手段である。また、安全・安心、美容・健康、環境・廃棄物対策など包装・物流のトレンドは世界共通の尺度で進み、道路、輸送システム、情報メディア、食品・包材加工技術などの産業基盤の構築が最重点課題である。そして包装・物流は 21 世紀の永遠のテーマとして捉えられ、人口増、飢餓、食料不足、廃棄物問題への対応と大きな期待を背負っている。

3. 国際競争力の拡大と BRICs の台頭

開発途上国の中でもアジア、南米、アフリカ、中東などの包装・物流への注力は目を引くものがある。欧米・日本などの先進国の技術移転がこれらの国々で着実に進められており、今後の発展が楽しみである。

また、豊富な資源・人口、広大な土地を保有する BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国などの新興国）の台頭が期待されている。これら 4 カ国を合計すると世界の土地面積の 29%、人口の 42%を占め、世界経済に占める割合が高く GDP のウエイトが 24%と米国・EU を上回っている。そして今後も比較的高い成長率を維持してゆくものと思われる。

4. むすび

包装・物流の分野にも国際化「グローバル化」の波が押し寄せており、これに対応するためには先進国・新興国・開発途上国がそれぞれの役割を分担してゆかねばならない時代に突入している。包装・物流は商品を最終的に保証する砦である。包装・物流技術の移転は先進国の ODA によって進められてはいるがまだまだその格差を埋める段階には至っていない。包装材料が入手しにくい、価格が高い、包装システムのメンテナンスができないなどまだ解決すべき問題が山積している。また、包装人材の育成も急務的であり国際交流によってレベルアップを図ってゆく必要性を感じる。

現在、開発途上国の 21 パーセント、およそ 11 億人の人々が 1 日 1 ドル未満の生活を強いられていると言われる。それらの人々は目を輝かせて先進国の援助を待っており、関係者の努力の結果お互いが共有できる笑顔を是非とも実現したいものである。



包装・物流の海外技術移転の代表的セグメント